

映画「風に立つライオン」 を観て 感動！そしてうるうる



「風に立つライオン」観ました！

傷が治った兵士が、「また戦場に戻る」と言った場面が印象的でした。やるせない思いも抱きながら、1人でも多くの命を救うため奮闘している赤十字の人々の姿に感動しました。私も国際的に活躍できる看護師になりたいです。

3年生 山下恵奈

苦しむ人を救いたいという強い信念を持って活動されている姿に心を打たれました。「風に立つライオン」の歌詞が心に響き涙が止まりませんでした。

3年生 小西由起

人間は人間に対して残酷にも優しくもなれるんだと実感させられる映画でした！！人の気持ちは連鎖していくんですね。 3年生 矢野寛子

さだまさしさんが1987年に発表した楽曲「風に立つライオン」は、ケニアで医療活動に携わった日本人医師：柴田紘一郎氏をモデルに書かれた名曲であり、同名のこの映画は、さだまさしさんがその後この曲を元に書いた小説が原作となっています。映画の舞台の一つとなっている、ケニア北部のロキチョキオのロピディン赤十字戦傷外科病院は、ICRC（赤十字国際委員会）が隣国スーダン南部（現南スーダン）での武力紛争の犠牲者を救援するため、1987～2006年にわたり設置されました。映画化にあたって、日本赤十字社やICRC等が全面的に協力しました。ロピディン赤十字戦傷外科病院で医療活動を行った赤十字病院の医師や看護師が、当時の状況を紹介したり、技術指導を含めた医療監修にあたりました。この映画を観ると赤十字の活動をリアルに感じていただけると思います。

